

ディスクロージャー誌
2018年度上半期



目 次

あいさつ	1
J A兵庫みらいのプロフィール	1
1. 経営理念	2
2. 経営方針	2
3. 事業活動のトピックス（平成30年度上半期）	3
4. 農業振興活動	3
5. 地域貢献情報	4
6. J A兵庫みらい自己改革の取り組み状況	6
7. 事業の概況（平成30年度上半期）	12
(1) 事業実績の推移	13
(2) 有価証券の時価情報	13
(3) 自己資本比率（単体）	13
8. 金融再生法開示債権区分に基づく保全状況	14

あいさつ

皆さまには、平素から格別のご愛顧をいただき厚く御礼申し上げます。

J A兵庫みらいは、情報開示を通じて経営の透明性を高めるとともに、当J Aに対するご理解を一層深めていただくために、主な事業の内容や組織概要、経営の内容などについてまとめた「ディスクロージャー誌2018年度上半期」を作成いたしました。

当J Aの事業をさらにご利用いただくための一助として、是非ご一読いただきますようお願い申し上げます。

今後とも一層のご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

兵庫みらい農業協同組合
代表理事組合長 小紫 康正

J A兵庫みらいのプロフィール

◇設 立	平成14年4月	◇組合員数	27,812人
◇本店所在地	加西市玉野町	◇役員数	25人
◇出 資 金	34億円	◇職員数	432人
◇総 資 産	4,433億円	◇支店・営農生活センター数	17カ所

(平成30年9月末現在)

1. 経営理念

「わたしたちは農業、くらしのパートナー。

元気な農業、元氣なくらしを応援します。」

J A兵庫みらいは、組合員や地域住民のよき相談相手として、地域の「農業」と「くらし」を応援していくことが基本的使命であると考えています。

J Aのもつ事業機能や相談機能をより一層高め、みらいの農業、みらいのくらしをサポートします。

2. 経営方針

- (1) 地域農業の振興と農業者の所得増大の実現により、
やりがいのある農業をみらいへつなぐ

「担い手や新規就農育成・支援」「産地育成」「出向く体制の強化」を図り、農業者の所得増大に向けた地域営農を推進することにより、やりがいのある農業をめざします。

- (2) 特色ある地域農産物の生産拡大とブランド力・販売力の強化により、
地域の「農業」をみらいへつなぐ

6次産業化や地産地消への取り組み強化および販路拡大に向けた販売力の強化、契約栽培による有利販売と生産から販売までの営農指導をおこない、売れる農産物の生産拡大に取り組みます。

- (3) 地域社会への貢献と支店・営農生活センターを拠点とした活動により、
地域の「くらし」をみらいへつなぐ

J Aファンづくり活動の実践により、総合事業を最大限に活用し、豊かな地域社会の実現に取り組みます。

- (4) 組合員加入の促進と准組合員の声をJ A運営に反映できる仕組みにより、
組合員組織をみらいへつなぐ

組合員加入促進運動の展開を進めるとともに、さまざまな事業活動を通じて、組合員や地域住民の「声を聴く」「共有する」取り組みを展開します。

- (5) 環境変化に対応できる経営管理態勢の強化により、
健全な事業基盤をみらいへつなぐ

J Aを取り巻く環境変化に迅速に対応できる経営管理態勢の充実と、さらなるリスク管理態勢の強化を図り健全な事業基盤を築きます。

- (6) 自己改革を実践できる人材育成により、
明るく活力ある職場をみらいへつなぐ

自己改革を実践するために、人事制度の整備や教育研修体系の見直しを通じ、「自ら考え行動する」人材育成と、明るく活力ある職場づくりをおこないます。

3. 事業活動のトピックス（平成30年度上半期）

平成30年4月1日	貸農園「兵庫みらいアグリパーク」開園
平成30年5月8日	J A兵庫みらいアスパラガス部会 設立
平成30年5月13日	「加西とまと使用 とまとチリソース」新発売
平成30年5月19日	みらいキッズ親子農業体験 サツマイモ植え付け
平成30年5月22日～24日	地区別懇談会
平成30年6月16日	みらいキッズ親子料理教室 季節の和菓子作り
平成30年6月23日	第16回通常総代会
平成30年7月4日	J A兵庫みらい金融教室
平成30年7月14日	みらいキッズ親子農業体験 トウモロコシ収穫
平成30年7月21日	第7回釣り大会
平成30年8月6日	職場マナー・ディスプレイコンテスト
平成30年8月12日	J Aバンク兵庫サッカー教室
平成30年8月18日	みらいキッズ親子料理教室 そば打ち体験
平成30年8月30日	グリーン・ツーリズム
平成30年9月7日	第12回組合長杯ゲートボール大会
平成30年9月9日	「小野産いちじく使用 こまちソース」新発売

<ご案内>

イベント、商品紹介、事業等については、当J Aの広報誌「みらい倶楽部」やホームページでもご案内しております。

ホームページアドレス : <http://www.hyogomirai.com/>

4. 農業振興活動

J A兵庫みらいは、「農業者の所得増大」や「農業生産の拡大」を達成するため地域農業の振興を図るとともに、農業を通じた豊かな地域社会の発展をめざして、次のような農業振興活動に取り組んでいます。

1. 安全・安心な農産物づくりへの取り組み

生産履歴記帳運動（トレーサビリティ）に取り組む、安全・安心な農産物の提供に努めています。

2. 集落営農組織の育成・支援

地域農業の担い手として、集落営農組織の育成・支援をすすめています。

3. 地産地消の取り組み

管内4カ所のファーマーズマーケット（農産物直売所）において、地域の消費者に地元産の新鮮で安全・安心な農産物の提供に取り組んでいます。

4. 農業とのふれあい活動

「農業とのふれあい」をテーマとして、市民農園の活動を実施しています。

5. 食育の取り組み

田植え、稲刈り等の農作業体験や「ちゃぐりんフェスタ」を通じて、子供たちに食と農の大切さを伝えています。

5. 地域貢献情報

J A兵庫みらいは、協同組合活動の原点である「組合員の営農とくらし」を守り地域農業の振興に努めるとともに、地域社会の発展に貢献するためさまざまな活動を展開しています。

1. 社会貢献活動

(1) 環境問題への取り組み状況

- ・環境に配慮した諸活動を展開しています。
- ・省エネルギーを実践するため、クールビズ・緑のカーテン等に取り組んでいます。

(2) 地域の安全・防犯活動

- ・地域の安全を見守る「みらいみまもり隊運動」を継続し、地域住民ならびに行政機関、警察と連携して地域の安全・安心活動や声掛け活動に取り組んでいます。
- ・行政と連携した「高齢者みまもり隊」の活動により、高齢者支援に取り組んでいます。

2. 地域貢献活動

(1) 地域からの資金調達の状況

貯金残高（平成30年9月末現在）（単位：百万円）

種 類	残 高
当 座 性	95,796
定 期 性	316,989
小 計	412,786
譲 渡 性	—
合 計	412,786

(2) 地域への資金供給の状況

貸出金残高（平成30年9月末現在）（単位：百万円）

種 類	残 高
農 業 近 代 化 資 金	1
そ の 他 制 度 資 金	11
農 業 関 連 融 資	373
事 業 関 連 融 資	12,639
住 宅 関 連 融 資	36,661
生 活 関 連 融 資	1,704
そ の 他	519
合 計	51,910

(3) 文化的・社会的貢献に関する事項

① 福祉活動

組合員・地域住民の健康を守るため、町ぐるみ健診による健康管理活動をはじめ、高齢者福祉活動、地域助け合い活動に取り組んでいます。

② 職員の地域貢献への参加

職員においては、地域清掃活動や消防団活動をはじめとした社会活動に積極的に参加し、地域に根ざした活動を実践しています。

3. 地域密着型金融への取り組み

(1) 農業者等の経営支援に関する取り組み

当JAは、「わたしたちは農業、くらしのパートナー。元気な農業、元気なくらしを応援します。」という経営理念のもと、農業者をはじめ地域の皆さまに利用される総合事業体として営農・経済事業や金融機能のみならず、環境・文化・福祉といった面も視野に入れた事業・活動をおこなっています。

(2) 農業者等の経営支援に関する態勢整備

各営農生活センターに営農相談員を配置するとともに、県の改良普及センターとも連携して、農業者の農業技術・生産性向上に向けた相談・指導に応じています。

また、支店の融資担当者も農業や農業関連融資に関する知識を深め、農業者からの幅広い相談に応じることができるよう、日々研鑽しています。

(3) 農山漁村等地域活性化のための融資をはじめとする支援

農業者の多様なニーズに応えていくため、農業融資担当部門とTAC等営農・経済部門が連携し農業融資に関する訪問・資金提案活動を実施するとともに、各種プロパー農業資金に対応し、また、農業近代化資金や日本政策金融公庫資金の取扱いを通じて農業者の農業経営と生活をサポートしています。

(4) ライフサイクルに応じた担い手支援

農業後継者として新規就農者、若手専業農家、大型専業農家等の段階に応じた支援をするとともに、新規就農資金等、それぞれの段階に応じた融資制度を設定し経営と生活をサポートしています。

(5) 経営の将来性を見極める融資手法をはじめ担い手に適した資金供給手法の取り組み

農業融資については、TAC等営農・経済部門と連携し、取引実績や青色申告書等を活用した経営分析を通じて、農業者に適した資金提案をおこなっています。また、農業者に対する農機ハウスローン、担い手応援ローン、スーパーS資金等の融資について、JAバンクアグリ・エコサポート基金を通じた利子助成をおこなっています。

(6) 農山漁村等地域の情報集積を活用した持続可能な農山漁村等地域への貢献

「地域密着型支店づくり」による支店運営、農産物直売所の運営等を通じ、組合員、地域住民、消費者等のニーズを把握し、より身近な事業運営をおこなっています。

また、次代を担う地域の小学生等に対しては、農業への理解を促進するため、水稻や大豆等の出前授業による食農教育活動に取り組んでいます。

6. JA兵庫みらい自己改革の取り組み状況

JA兵庫みらいでは、持続的な地域農業の維持・振興とくらしやすい地域社会の実現に向けて、総合事業の展開により、「農業者の所得増大」、「農業生産の拡大」、「地域の活性化」を基本目標とする自己改革に取り組んでいます。

【目標】

- 「グレードアップ兵庫県産山田錦」「黒大豆」などの特産品を地域の基幹作物として生産拡大に努め、農業者の所得増大に取り組めます。
 - (平成30年度目標)・グレードアップ兵庫県産山田錦 契約数量 17.4万袋
 - (平成30年度目標)・黒大豆取扱高 1.1億円
- 新たな特産品としてアスパラガスの施設栽培を推進します。
 - (平成30年度目標)・アスパラガス施設栽培面積 1ha
 - (平成30年度目標)・パイプハウス設置数 15棟

【重点とする取り組み】

○農業者の所得増大、農業生産の拡大に向けた取り組み

取り組み	具体的な内容・目標	平成30年度上半期の取り組み状況・課題
特産物のさらなる拡大と支援	新たな特産品づくりへの取り組み 【平成30年度目標】 新規生産者数 10件 新規栽培面積 38a	昨年度よりアスパラガスの普及に努めています。JA実践型研修ハウスで試験栽培をおこなうとともに、新規栽培希望者に栽培の指導や支援を継続しておこないました。 【平成30年9月末現在】 生産者数 累計19件 栽培面積 累計80a 平成30年5月に、「JA兵庫みらいアスパラガス部会」を設立。部会員19名。 引き続き、生産面積の拡大に向けて、広報誌・HP等で情報発信し、産地育成の実践に取り組んでいきます。



取り組み	具体的な内容・目標	平成30年度上半期の取り組み状況・課題
<p>特産物のさらなる拡大と支援</p>	<p>農産物の産地振興と農家の所得向上</p> <p>【平成30年度目標】</p> <p>山田錦 1,449ha 黒大豆 92ha 小麦 322ha キャベツ 11ha</p> 	<p>山田錦・黒大豆・小麦・キャベツの4品目をJA兵庫みらいの主要作物として位置づけ、栽培指導の充実と販売力強化をめざして産地育成に取り組みました。</p> <p>加西、三木、小野地区で、各栽培講習会および栽培説明会、適期診断等を実施し、生産力と農家所得の向上に努めました。</p> <p>【平成30年度9月末実績】</p> <p>山田錦 1,449ha 黒大豆 83ha 小麦 277ha キャベツ 9ha</p> <p>引き続き、高品質・高収量に向けた栽培技術指導とさらなる販売力強化を目指して産地育成に取り組みます。</p>
<p>特産物のさらなる拡大と支援</p>	<p>農業用パイプハウス設置支援</p> <p>【平成30年度設置目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・パイプハウス 15棟 ・付帯設備 15件 	<p>パイプハウスおよび付帯設備（換気装置・自動給水装置・ボイラー・内張資材・遮光シート）を対象とした助成をおこないました。 補助率50%（上限50万円）</p> <p>【平成30年度9月末実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・パイプハウス：11棟（累計28棟） ・付帯設備：7件（累計14件） <p>管内の農業者または農業者で組織する団体を対象に、営農振興作物栽培のためのパイプハウスおよび付帯設備の普及拡大に取り組みます。</p>

取り組み	具体的な内容・目標	平成30年度上半期の取り組み状況・課題
<p data-bbox="169 192 341 309">農業担い手への訪問活動の強化</p>   	<p data-bbox="373 192 743 268">認定農業者宅を訪問し、対話活動の強化</p>	<p data-bbox="769 192 1423 318">管内の認定農業者宅を常勤役員が訪問し、JAの取り組む自己改革の説明および意見集約に取り組みました。</p> <p data-bbox="788 367 1114 405">【認定農業者訪問件数】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li data-bbox="845 416 1197 450">・加西地区 35軒 <li data-bbox="845 461 1197 495">・三木地区 11軒 <li data-bbox="845 506 1197 539">・小野地区 17軒 <li data-bbox="865 551 1197 584">合 計 63軒 <p data-bbox="769 631 1423 757">今後は、訪問時に聞き取りした意見・要望をJA事業に活かすべく、関係部署とも連携し、自己改革に取り組んでいきます。</p>
<p data-bbox="169 1070 341 1146">地域農業の支援強化</p>	<p data-bbox="373 1070 743 1108">高品質苗の安定供給</p>  	<p data-bbox="769 1070 1423 1196">人工光型植物工場「コンテナ式育苗装置」を活用し、4月～5月にかけて、サニーレタスや水菜等を栽培し、直売所で販売しました。</p> <p data-bbox="769 1285 1423 1500">6月～8月まで、直売所で不足している商品（レタス、キャベツ、白菜、ブロッコリー）の苗を、約10,000株育苗。その苗を直売所生産者に提供し、栽培を依頼。直売所への出荷へ繋げ、農産物の拡大に努めました。</p>

取り組み	具体的な内容・目標	平成30年度上半期の取り組み状況・課題
<p>生産資材の安定供給と支援</p> 	<p>生産面でのコスト削減に貢献</p>	<p>生産コスト低減を図るため、各種支援助成を実施、30年度も継続実施しています。担い手支援助成として、水稻肥料農薬予約価格の10%引き、大口利用者特別助成として肥料・農薬価格の最大5%引き、肥料引取（持ち帰り）奨励助成として肥料1袋（1,000円以上）に対して50円値引きを実施。</p> <p>【平成30年度9月末実績】 各種支援助成 7,767千円</p> <p>引き続き、高度化成14-14-14、ラウンドアップ、バスタについては、地域で一番の低価格により提供することを目指します。</p>
<p>魅力ある直売所へ</p>  	<p>消費者ニーズにあった直売所の展開</p>	<p>魅力ある店舗を目指し、消費者ニーズのある品揃え、およびイベント等を実施しました。全国のJAと提携し、季節商品・果樹・加工品などを販売しました。</p> <p>直売所店長と副店長が、直売所研修の一環として、商品の品出しや接客マナーを学ぶため、ダイエー神戸三宮店での店舗研修に参加。さらに、同店でマーケットインの取り組みとして、加西産ぶどう「加西ゴールデンベリーA」の試験販売を実施しました。</p>  <p>出荷会員を増やすため、生産者に栽培提案や指導を実施しました。また副店長の農家訪問により、新規出荷希望者の情報収集にも取り組んでいます。</p>

取り組み	具体的な内容・目標	平成30年度上半期の取り組み状況・課題
6次産業化への取り組み	農商工連携を進め、特産品の販路拡大や加工品開発に努める	<p>企業と連携して管内の農産物の規格外品を活用して加工品を製造し、直売所やJA間交流で販売しました。</p> <p><新発売商品></p> <p>5月 「とまとチリソース」</p> <p>9月 「こまちソース」</p> <p>また管内のコンビニエンスストアと連携し、特産加工品の店頭販売を実施。（加西市）</p> <p>市場出荷できない規格外品（いちじく、トマト）を買い上げ、ピューレに加工し、販売することで、生産者の所得向上に貢献しました。今後、ピューレを学校給食等へ販売拡大し、地産地消の拡大に努めます。</p>



○地域の活性化に向けた取り組み

取り組み	具体的な内容・目標	平成30年度上半期の取り組み状況・課題
地域コミュニティの活性化	地域とJAのつながり強化を図る	<p>地域ふれあい委員会を開催し、地域の代表者と意見交換をおこない、地域とのさらなるつながりを強化しました。</p> <p>営農生活センターの展示会や地域イベント等にも、支店職員が積極的に参加し、地域との交流を深めました。</p> <p>また、新たな取り組みとして、平成30年4月に「兵庫みらいアグリパーク」（三木市）を開園し、組合員や地域住民との「新たな場」、「集いの場」を提供しました。</p> <p>農業体験参加者 102名 （うち子供 57名）</p>



取り組み	具体的な内容・目標	平成30年度上半期の取り組み状況・課題
<p>地域コミュニティの活性化</p>	<p>地域みまもり活動</p>  	<p>地域防犯活動、災害時支援活動として、「みらいみまもり隊」「高齢者みまもり隊」の活動に取り組みました。</p> <p>公用車に「みらいみまもり隊」シールを貼り付けし、地域防犯活動に取り組みました。また、各行政のSOSネットワーク事業に参加し、行方不明者などの捜索協力事業者として活動しました。</p> <p>地域の小学校等の下校時みまもり活動は、平成30年度から、2支店増え、3支店が実施しました。（善防、在田、下東条支店）</p> <p>引き続き、「みらいみまもり隊」、「高齢者みまもり隊」による地域みまもり活動に努めます。</p>
<p>アクティブ・メンバーシップ（※）の実現</p>	<p>組合員や地域住民の「声を聴く」「共有する」取り組みを展開</p>  	<p>職員の自己改革の認識を深めるため、全職員対象の「自己改革研修会」を8月に開催。また自己改革を広く組合員や地域住民にPRするため、自己改革の「のぼり旗」を作成し、本店、各支店、事業所へ設置しました。</p> <p>また、組合員や地域の「声を聴く」取り組みとして、認定農業者宅の訪問や、地区別懇談会を開催しました。</p> <p>平成30年2月に実施した「組合員アンケート」の結果については、今後、事業部門ごとに内容を検証し、各事業に反映し、自己改革に向けて取り組んでいきます。</p>

（※）アクティブ・メンバーシップとは、組合員が積極的に組合の事業や活動に参加すること。組合員が「わたしのJA」と思えるように努めること。

7. 事業の概況（平成30年度上半期）

日本経済は、企業収益の改善が続く中で緩やかな回復基調が続いています。ただ、雇用環境に続き賃金も改善が見られはじめたものの、内外需の伸びは依然として横ばいであり、景気回復の実感はまだまだ乏しく感じられます。

農業面では、30年産米から行政による生産数量目標の配分が廃止されていますが、当JAでは需要に応じた米の生産がおこなえるよう、情報提供など取り組みを続けています。また、TPP交渉は、すでに数か国が関連法を改正し国内手続きを終えるなど、協定の早期発効を目指して協議が進められています。

このような情勢のなか、当JAは堅実で健全な経営を基本理念として、次のことに取り組みました。その結果、平成30年9月末日現在の当期剰余金は3億3,805万円となり、計画対比120.3%となりました。

1. 信用事業

利用者に信用・信頼される地域金融機関としての機能の充実に努めるとともに、新規開拓に取り組み、取引先の拡大を図りました。

この結果、9月末日貯金残高は4,127億円の実績となりました。

2. 共済事業

組合員とその家族、さらには地域住民を含めた幅広い普及活動の展開により、長期・年金・自動車・自賠責共済など必要な人に必要な保障の提供を図る推進活動を展開しました。

この結果、長期共済の新契約は、9月末日現在で345億円の実績となりました。

3. 購買事業

営農指導を機軸とした購買事業の展開と、組合員ニーズに合った購買品の廉価供給に努めました。また、価格の低減を図るため、予約購買の増強に取り組みました。

この結果、購買品供給高は、9月末日現在で9億円の実績となりました。

4. 販売事業

市場需要に応じた新規作物の導入と安全・安心な農産物生産、販売に努めました。

この結果、販売品販売高は、9月末日現在で4億円の実績となりました。

5. 指導事業

(1) 営農指導

地域の特性を生かした農業の振興のための諸施策を実施するとともに、将来を担う農業の担い手の育成に努めました。

(2) 生活指導

地域での助け合い運動の拠点としての機能を発揮するため、高齢者福祉活動の支援に取り組みました。

(1) 事業実績の推移

(単位：百万円)

種 類		平成30年9月末	平成30年3月末	平成29年9月末
信用事業	貯 金	412,786	404,099	404,966
	貸 出 金	51,910	50,875	50,177
	預 金	357,549	346,939	351,029
	有価証券	7,295	8,739	9,186
共済事業	長期共済保有高	579,391	589,777	600,056
	長期共済新契約高	34,556	52,179	41,051
	短期共済新契約掛金	499	1,139	548
経済事業	購買品供給高	920	1,716	914
	販売品販売高	404	4,056	434

(2) 有価証券の時価情報

(単位：百万円)

保有区分	平成30年9月末			平成30年3月末		
	取得価額	時 価	評価損益	取得価額	時 価	評価損益
売 買 目 的	—	—	—	—	—	—
満期保有目的	—	—	—	—	—	—
そ の 他	7,114	7,295	181	8,514	8,739	224
合 計	7,114	7,295	181	8,514	8,739	224

- (注) 1. 時価は市場価格としています。
2. 取得価額は取得原価又は償却原価としています。
3. その他有価証券については時価を貸借対照表価額としています。

(3) 自己資本比率 (単体)

平成30年9月末	平成30年3月末
16.64%	16.68%

8. 金融再生法開示債権区分に基づく保全状況

(単位：百万円、%)

債権区分	平成30年9月末	平成30年3月末
破産更生債権及びこれらに準ずる債権	500	535
危険債権	131	139
要管理債権	—	—
小計(A)	631	675
保全額(合計)(B)	631	675
担保・保証	335	356
引当	296	319
保全率(B/A)	100.0	100.0
正常債権	51,322	50,253
合計	51,954	50,928

(注) 1. 上記の債権区分は、「金融機能の再生のための緊急措置に関する法律」(平成10年法律第132号)第6条に基づき、債務者の財政状態及び経営成績等を基礎として、次のとおり区分したものです。

①破産更生債権及びこれらに準ずる債権

法的破綻等による経営破綻に陥っている債務者に対する債権及びこれらに準ずる債権

②危険債権

経営破綻の状況にはないが、財政状況の悪化等により元本および利息の回収ができない可能性の高い債権

③要管理債権

3か月以上延滞貸出債権(元金又は利息の支払が、約定支払日の翌日を起算日として3か月以上延滞している貸出債権)および貸出条件緩和貸出債権(経済的困難に陥った債務者の再建又は支援を図り、当該債権の回収を促進すること等を目的に、債務者に有利な一定の譲歩を与える約定条件の改定等を行った貸出債権)

④正常債権

上記以外の債権